

新市立病院整備に係る市民説明会のご意見・質問概要

会場：とどろみの森学園　プレイルーム

令和6年5月14日（火）午後6時開催

※ホームページでの公表に際し、当日の発言のままだではなく表現や内容を整理・精査しています。ご了承ください。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
1	新市立病院では回復期リハビリテーション病床がないことについては理解したが、急性期病院としてリハビリテーションは継続して実施されるのか。また、その後回復期リハビリテーションが必要になった場合、本当に他の病院で受け入れてもらえるのか。地域で充足しているのか。	急性期での入院期間中のリハビリテーションは、これまでどおり継続して実施します。その後、回復期リハビリテーションが必要な場合は他の病院に転院していただくこととなりますが、地域の協議の中では、豊能二次医療圏の回復期リハビリテーションの提供体制は充実しており、民間病院を中心に十分対応可能との意見でした。市立病院を退院後、回復期リハビリテーションが必要になれば、それらの病院でしっかり受け入れていただけるものと考えています。
2	再編統合により協和会病院が廃院になっても病床数は不足しないのか。	今後、高齢者人口の増加に伴い患者数が増加する中で、豊能二次医療圏全体で病床転換等が進む可能性はありますが、現状では、協和会病院が廃院することですぐさま病床が不足するような状況ではないと認識しています。
3	新市立病院では今までの負債を解消しないといけないと思う。開院後数年は赤字が続くと聞いた。病院の経営状況には人件費が大きく影響すると思う。給与の高い公務員の職員がいなくなれば経営の健全化が図れるが、一方で人材確保はしないといけない。職員の確保と人件費のバランスをどう考えるのか。また、職員は民間企業でいうところの整理解雇さなので、労務対策はどうなっているのか。	まず、現病院職員の処遇についてですが、令和7年度から指定管理を開始することに伴い、職員は分限免職となります。分限免職に際し、市は最大限の回避努力が求められることから、一定数の職員を市へ配置転換することとしています。配置転換せず分限免職となる職員に対しては、退職金を割増支給することが規定されています。あわせて、指定管理者である協和会との間で、協和会への就職を希望する者は特段の事情がない限り全員受け入れるよう取り決めており、分限免職後の雇用を確保しています。 協和会としても、現在市立病院で勤務している職員をできるだけ多く引き継ぐことで、現在の医療提供体制をしっかりと継続していきたいという方針です。そのため、協和会に就職して給与が減額となる職員に対し、5年間現給保障することで、協和会への就職を促していきます。市は、協和会が現給保障に要した負担に対して財政支援を行います。
4	多角的な視点で病院経営を評価するために、指定管理者評価委員会には病院経営者ではなく、他の分野の経営者を含めるべきだ考える。	病院の経営は専門性が高いため、病院経営者が望ましいと考えています。また、多角的な視点という意味では、公認会計士も委員に入っていると思います。
5	指定管理になることで現給保障が必要なほど給与が下がるなら、この先退職者が出るのではないかと。処遇改善しなければ人材確保が難しいのではないかと。	看護師をはじめとした医療スタッフの確保が難しくなっており、全国的にも医療スタッフの処遇改善が叫ばれているところです。市としては、今回看護師・助産師を対象に就職支度金・生活支援金制度を創設しましたが、これにより少しでも多くの採用につながればと考えています。処遇改善については、協和会としても人材市場を注視しながら対応されることと思いますが、市としても人材確保に向け手を尽くしていきます。
6	用地取得費が107億円と非常に高額だが、高額な場所に移転する必要があったのか。止々呂美の住民からするとメリットが多くないような気がするが。	新市立病院の敷地は、新御堂筋と国道171号線という基幹道路の結節点にあり、非常にアクセスの良い立地です。また、伊丹空港からも車で15分から20分程度で来れるため、物資の運搬に関しても利便性が高いと言えます。救急や災害時のことを考えると、止々呂美にお住まいのかたにとっても決してメリットは小さくないと考えています。